



（妙高市誕生10周年）  
生命の輝くまち妙高





妙高市長  
入村 明

## 合併から10年。 生命地域妙高を目指し、さらに邁進

平成17年4月1日、旧新井市、旧妙高高原町、旧妙高村の3市町村が合併して、「妙高市」が誕生しました。

妙高市の誕生から市政の舵取りを預からせていただき早や10年が過ぎました。思い返せばこの間、国内外の情勢は言うに及ばず、妙高市を取り巻く社会経済情勢や環境も大きな変化を見せております。

このような社会変化に対応し、他の自治体に遅れをとらないよう、わき目もふらず必死に走り続け、瞬く間に時間が過ぎ去ったように感じております。

「生命地域の創造」を市の基本理念に掲げ、「住んでよし、訪れてよいまち」を目指し、様々な取り組みを進めてまいりました。特に「総合健康都市」の推進につきましては、妙高の豊かな自然や資源を活かした健康保養地プログラムの構築や、日本クアオルト協議会の設立の一翼を担うなど、年々取り組みを拡大し、厚生労働省から表彰を受けるまでになりました。そして、誕生10周年の節目の年に、上信越高原国立公園からの妙高・戸隠エリアの分離・独立が進み、「妙高戸隠連山国立公園」が誕生したとともに、北陸新幹線上越妙高駅の開業を迎えることができました。妙高が持つ自然資源を保全するとともに活用し、交流人口を拡大させるには絶好の機会であり、当市にとっては最大級の追い風が吹いているものと感じており、この勢いを持続させていかなければならないと感じております。

一方、全国的にも深刻になっている少子化や急速に進んでいる高齢化など、喫緊にも取り組まなければならない課題も多く残されております。これらに適切に対応し、市民の誰もが、住み慣れた地域で安心して暮らすことができる地域社会の創出に向け努力してまいります。

結びに、これから先の10年に向け、妙高市の礎を揺るぎないものとするため「一を以て之を貫く」姿勢で望んでまいりますので、市民の皆様、関係各位におかれましても、今まで以上のご支援、ご協力を賜りますことをお願い申し上げます。発刊のごあいさつといたします。

## 目次

発刊によせて	1
妙高市誕生から10年のあゆみ	
平成17年度(2005)	3～4
平成18年度(2006)	5
平成19年度(2007)	6
平成20年度(2008)	7～8
平成21年度(2009)	9
平成22年度(2010)	10
平成23年度(2011)	11
平成24年度(2012)	12
平成25年度(2013)	13～14
平成26年度(2014)	15～16
これからの妙高市へ	17
第2次妙高市総合計画、交流都市	18
わがまち妙高への想い	19～20
妙高市の統計	21～22
妙高市民の心	23
非核平和都市宣言	24
歴代市長ほか	25
妙高市の歌	26



火打山のライチョウ

写真提供：国際自然環境アウトドア専門学校

# 妙高市誕生から 10年のあゆみ

年表と懐かしい写真、そして歴代の助役・副市長・収入役・教育長の思い出の言葉で、妙高市の10年の歴史を振り返ります

心を一つに輝く未来へ出発

平成  
17  
(2005)年度

## ■平成17年

- 4月 ・ 妙高市誕生
- 9月 ・ 国内初の構造改革特区以外の株式会社の農業参入
- ・ 「妙高市誕生記念式典」を開催
- ・ 「妙高市誕生記念音楽祭」を開催
- 11月 ・ 「妙高山麓直売センターとまと」を開設
- ・ 競輪場外車券売場「サテライト妙高」を開設

## ■平成18年

- 1月 ・ 豪雪災害対策本部設置
- 2月 ・ 「第43回全国中学校スキー大会」を開催
- ・ トリノ冬季オリンピックに妙高市関係者10人出場



4月1日、市役所玄関に「妙高市役所」の看板を掲げ、新たな時代がスタートした



妙高市誕生記念式典



合併記念行事「東京フィルハーモニー交響楽団演奏会」



平山郁夫東京藝術大学学長(当時)書の石碑。  
現在は、市役所正面入口にある

平成17年は、様々な合併記念行事を実施。9月には、総務大臣、県知事、東京藝術大学学長などをお迎えして「妙高市誕生記念式典」を開催しました。式典では、市の歌「めぐる季節は」を作詞・作曲した荒木とよひささんの指揮で合唱も行われました。このほかの合併記念行事として、東京フィルハーモニー交響楽団演奏会、平山郁夫展、芸能発表会などを開催し、妙高市の誕生を祝いました。



全国中学校スキー大会開会式



コンパインド後半・クロスカント  
リースキーの熱戦の様子

平成 18 年 2 月、全国中学校スキー大会を開催。地元妙高勢が大活躍し、スキー王国妙高を全国にアピールした

## 思い出の言葉

### 妙高市誕生を思い起こせば



元助役  
横尾 幸秀さん

妙高市誕生 10 周年、誠に  
おめでとうございます。

2001 年 3 月に「縣市町村  
合併促進要綱」が発表され、  
当地域では「新井頸南広域行  
政組合（5 市町村で）」を中  
心に「勉強会」を立ち上げ、  
住民アンケートや懇談会など  
を実施した結果、旧板倉町と

旧中郷村は上越市の大規模合併を選択して離脱しました。2002 年 11 月に入村市長が初当選し、合併協議がスタートしました。3 市町村では合併方式と名称に多くの時間を費やし、「編入」合併と町村の意向を尊重して新市の名称を「妙高市」に決めました。

「編入でも新設合併」の気持ちを合言葉に、私は助役として合併前後の 4 年間調整役で汗をかいたことが忘れられない思い出です。



全国初、株式会社の農業参入。泉田知事が大葉の栽培の様子を視察に訪れた



地域の皆さんで祝った「妙高山麓直売センターとまと」の竣工式



トリノ冬季五輪に市関係者 10 人出場  
(平成 18 年 5 月の報告会)

### 市議会議員 (敬称略)

●妙高市スタート時(平成 17 年 4 月 1 日)  
深石和栄、間島英夫、丸山喜一郎、樋口次夫  
長尾賢司、尾崎 博、吉住安夫、丸山與一郎  
豊岡賢二、水野文雄、下鳥美知子、安原義之  
渡辺幹衛、荒川忠静、作林一郎、堀川 勇  
佐藤栄一、丸山義忠、植木 茂、堀 謙三

●平成 17 年(増員選挙)  
望月幸雄、関口正男、佐藤光雄、宮澤一照  
山川久子、北村正春、山川香一、望月 弘  
後藤 求



快適な生活へ基盤を整備

平成  
18 (2006) 年度

■平成 18 年

- 4 月 ・「妙高市民の心」推進事業を実施
- ・「市民活動支援センター」を開設
- 7 月 ・「妙高市文化ホール」をリニューアル
- 8 月 ・「第 1 次妙高市総合計画」（基本構想・前期基本計画）を策定
- ・県内初のコミュニティバス（過疎地有償運送）が運行開始
- 9 月 ・あっぱれ逸品認定制度創設
- 10 月 ・上信越自動車道「新井スマートインターチェンジ」が恒久化
- ・「斐太史跡公園」が「日本の歴史公園100選」に選定

■平成 19 年

- 1 月 ・「妙高市犯罪のない安全・安心なまちづくり条例」が施行
- 3 月 ・妙高市役所 ISO 統合マネジメントシステム（9001・14001）を認証取得



県内初となるコミュニティバス「いきいき長沢」の出発式。地域の皆さんの大切な交通手段として利用されている



新井スマートインターチェンジ



道の駅あらいに設置されているスマートインターチェンジ（利用時間：6時～22時）。毎日多くの人に利用されている



「妙高市民の心」推進事業スタート。写真は、平成 19 年に大洞原で行ったハーブの植栽活動

雪国で培った助け合いの心を「妙高市民の心」として受け継ぎ、育てていくため、挨拶運動、花植えやごみ拾い等の地域の美化活動などを推進しています。（詳細は、23 ページ）



妙高市文化ホールリニューアル式典



市民サービスの向上のため、ISO（9001・14001）認証を取得。登録証授与式で登録証を受け取る入村市長

妙高に新たな風

平成  
19 (2007) 年度

■平成 19 年

- 4 月 ・「妙高市自治基本条例」が施行
- ・「生命地域創造戦略プロジェクト」が「頑張る地方応援プログラム」に認定（総務省）
- 6 月 ・笹ヶ峰で遊歩道を新設、ランニングコースを整備
- 7 月 ・「妙高ゆかりの作家たち展～東京芸術大学を中心として」を開催
- 9 月 ・滞在型市民農園「クラインガルテン妙高」を開設
- 10 月 ・「第8回介護保険推進全国サミットみょうこう2007」を開催
- 11 月 ・「妙高市防災士」設置
- 12 月 ・「企業立地に頑張る市町村20選」に選定（経済産業省）

■平成 20 年

- 2 月 ・新井小学校が「特色ある教育実践校 優秀賞」を受賞（文部科学省）
- 3 月 ・「市役所新庁舎」で業務開始



市議会議員（敬称略）

●平成 19 年選出

高田保則、田中一勇、丸山義忠、望月幸雄  
横尾祐子、塚田克己、佐藤栄一、山川香一  
作林一郎、関根正明、望月 弘、長尾賢司  
吉住安夫、豊岡賢二、丸山喜一郎、安原義之  
霜鳥榮之、佐藤光雄、水野文雄、下鳥美知子  
宮澤一照、間島英夫、渡辺幹衛  
※議員数 29人→23人



地域の宝に新たな輝き

# 平成 20 (2008) 年度

## ■平成 20 年

- 4 月 ・ 県内初の高齢者の運転免許返納支援制度を開始
- ・ 杉野沢小学校が妙高高原南小学校に統合
- ・ 県内初の「森林セラピー基地」「森林セラピーロード」に認定（林野庁）
- ・ 県内唯一の「株式会社の農業参加による地域新ブランド商品の開発」が農商工連携88選に選定（農林水産省・経済産業省）
- ・ 「子ども農山漁村交流プロジェクト」モデル地域に認定（総務省・文部科学省・農林水産省）
- 6 月 ・ 笹ヶ峰の「宇棚の清水」が「平成の名水百選」に選定（環境省）
- 7 月 ・ 市内の全小学6年生を対象に長期宿泊体験「妙高フレンドスクール」開始
- ・ 「鯨ヶ尾城跡」が国史跡に指定（文部科学省）
- ・ 国史跡「斐太遺跡」に「吹上遺跡」「釜蓋遺跡」を加えて「斐太遺跡群」となる（文部科学省）
- ・ クリーンパートナー制度開始
- 10 月 ・ 「妙高山雲上寺宝蔵院日記」の第1巻を発行
- ・ 「妙高高原スポーツ公園グラウンド」を全天候型に改修
- 12 月 ・ 小・中学生の携帯電話の原則所持を提言
- ・ 「行政革新度ランキング」（人口5万人未満都市）で全国第3位（日経グローバル）

## ■平成 21 年

- 1 月 ・ 「魅力的スノーボードリゾート地」世界6位とイギリス最大手新聞で紹介
- ・ 「妙高チャンネル」放送開始
- 2 月 ・ 県内唯一、妙高市消防団が「日本消防協会表彰旗」を受章
- ・ 国内初の「全日本スノーボード大会 in 妙高」を開催（トキメキ新潟国体）
- 3 月 ・ 新井地域で光ケーブル網によるサービス提供を開始



「森林セラピー基地」「森林セラピーロード」の認定を受け、交付式で認定書を受け取る市長



国体デモ競技としてスノーボードクロスが妙高で実施され、全国から選手が参加した



鯨ヶ尾城跡の国指定を記念して行われたシンポジウム



妙高高原グラウンドを全天候型に改修。竣工式後に行われた市内中学生などによる記念のランニング講習会



農山漁村モデル地域に認定。首都圏などから農村宿泊体験に子どもたちが訪れている



クリーンパートナー制度スタート。市民と行政が協働でまちの美化を進めている



妙高フレンドスクール開始。長期宿泊体験で助け合う心、生きる力の育成を進めている

## 思い出の言葉

### 職員の努力と市民の励ましに感謝



元副市長  
引場 良男さん

平成 14 年 4 月に市町村合併を担当する総務課に異動しました。その折に昭和の合併を職員として経験された大先輩から「合併後職員が心をひとつに一体感を持って仕事ができるまでに 10 年かかった」との苦労話をお聞きしました。

各家庭の味噌汁の味がそれぞれ違うように市町村の仕事も手順や方法、地域の皆さんとの接し方などが異なっており、特に町・村出身職員の皆さんは日々戸惑いと言葉には出せない苦労もあり、合併 1 年目は健康管理も含め随分心配した事を思い出します。しかし、全職員の皆さんの並々ならぬ努力と市民の皆さん、市議会議員の皆さんからいただいた励ましの言葉やご指導により短期間で名実共に「妙高市職員」となり一体感の醸成も昭和の合併より早期に達成できたと思っております。

合併 10 周年、改めて市民の皆さんと職員の皆さんに感謝し、次の 10 年に向け更なる飛躍を心から願っております。

## 思い出の言葉

### 合併当時の思い出



元収入役  
高櫻 實さん

妙高市誕生 10 周年、誠にありがとうございます。

新井市の収入役として合併に携わった時のことを振り返ってみますと、懐かしくもあり、様々なことが思い出として蘇ってきます。当時、私の想いでは、新井頸南広域行政組合を組織する 5 市町村が合併するものと思っていました。しかし、それぞれの考え方の違いなどがあり今日に至ったことも思い出の一つです。

新市の名称が「妙高市」に決まったとき、各地域の皆様の理解に、感謝の気持ちでいっぱいだったことを思い出します。あれから 10 年、その名称が、北陸新幹線の駅名「上越妙高駅」となり、新たな国立公園の名称「妙高戸隠連山国立公園」になるなど、全国に発信するにふさわしい市名だったと改めて喜んでおります。

最後に、今後の 10 年、20 年に向かって妙高市が益々発展することを心から願い私の思い出とさせていただきます。

自然に感謝。恒久平和願う

# 平成 21 (2009) 年度

## ■平成 21 年

- 4 月 ・ 県内初の公立認定こども園「妙高高原こども園」を開園  
・ 「妙高保育園」を開園（関山・原通・大鹿の各保育園を統合）
- 6 月 ・ 県内で唯一新型インフルエンザ予防対策としてマスクを全世帯に配布
- 7 月 ・ 関山神社御神体「銅造菩薩立像」が国重要文化財に指定
- 9 月 ・ けいなん総合病院に「病後児保育室」（スマイルポケット）を開設  
・ 「信越五岳トレイルランニングレース」を初開催
- 10 月 ・ 「道の駅あらい」の売上高が全国1位として公表（日経グローバル）  
・ 「第64回国民体育大会（トキめき新潟国体）ハンドボール競技」開催  
・ 「非核平和都市」を宣言  
・ 「森林セラピー基地」がグランドオープン
- 11 月 ・ 妙高産「華麗舞」が「第11回米・食味分析鑑定コンクール国際大会」で特別優秀賞を受賞（米・食味鑑定士協会）  
・ 「子どもの虐待防止推進全国フォーラムin にいがた・妙高」を開催
- 12 月 ・ 合併5周年記念「第九スペシャルコンサート」を開催

## ■平成 22 年

- 1 月 ・ 妙高高原・妙高地域で光ケーブル網によるサービス提供を開始
- 2 月 ・ バンクーバー冬季オリンピックに妙高市関係者2人出場
- 3 月 ・ 「家族の時間づくりプロジェクト」の実証事業実施地に選定（観光庁）



斑尾・黒姫・妙高・戸隠・飯綱の高原を駆け抜ける信越五岳トレイルランニングレース。毎年秋に22時間に及ぶレースが展開されている



合併5周年を記念して「第九スペシャルコンサート」が市文化ホールで行われ、すばらしい歌声に会場は感動に包まれた



銅造菩薩立像

国の重要文化財に指定された、銅造菩薩立像は関山神社の御神体。6世紀後半～7世紀初頭にかけて朝鮮半島で制作されたとみられる金銅仏。全長20.3釐と小さな仏像



平成21年10月10日「妙高市民の心」推進大会で、市は「非核平和都市」を宣言。中学生が宣言文を読み上げた（宣言文:24頁参照）

助け合う心を再認

平成  
22 (2010) 年度

■平成 22 年

- 4 月 ・市内全小中学校と特別支援学校で「米粉100%パン」の給食を開始・「にしき養護学校」を「にしき特別支援学校」に名称変更し「高等部」を開設
- ・吉木小学校が新井中央小学校に統合
- ・新井南中学校が妙高中学校に統合
- 8 月 ・「第61回新潟県消防大会」を開催
- ・合併5周年記念 佐川美術館所蔵「平山郁夫メモリアル特別展」開催
- 10 月 ・「新赤倉温泉観光施設（水辺の広場、LEDデザイン街路灯）」完成
- ・スキー発祥100周年記念のご当地カレー「レルヒさんカレー（妙高編）」を販売
- ・「林道 黒倉線」（長沢地区～上越市板倉区久々野）が全線開通
- 11 月 ・信越本線を引き継ぐ第3セクター会社「新潟県並行在来線株式会社」が発足
- 12 月 ・妙高市観光PRキャラクターが「ミヨーコーさん」に決定
- ・障がい者就労支援施設「パン工房 妙高」を開設

■平成 23 年

- 1 月 ・新井小学校新校舎が竣工
- ・「第1次妙高市総合計画・後期基本計画」を策定
- ・豪雪災害対策本部設置
- 3 月 ・東日本大震災の避難者受入れ（避難者最多受入数59世帯・177人（H23.3.27））

市議会議員（敬称略）

- 平成 22 年（補欠選挙）  
植木 茂



「もっちり、しっとり、うま〜い!」と、おいしそうに米粉パンを口にする妙高高原北小学校の子どもたち（当時1年生）



市内の小中学校で妙高市産米粉100%のパン給食を開始。製造は、障がい者就労支援施設「パン工房 妙高」で行っている

「パン工房 妙高」の竣工式



「平山郁夫メモリアル特別展」のオープニング式典には泉田知事も参加。場内を観覧した



平成23年3月11日に発生した東日本大震災。避難者の受け入れを実施。3月16日から3月23日まで妙高高原マッセ、3月24日から9月1日まで国立妙高青少年自然の家を避難所として開設。助け合いの心を改めて考えた

## 豪雪に共助の精神学び

# 平成 23 (2011) 年度

### ■平成 23 年

- 7 月
- ・地域サポート人を配置
  - ・「燕温泉河原の湯（露天風呂）」を移設
  - ・「妙高山麓都市農村交流施設」を開設
  - ・笹ヶ峰グリーンハウスと妙高高原スポーツ公園に「アイシングプール」を設置
- 9 月
- ・「部落解放第28回新潟県研究集会」を開催
- 10 月
- ・「北国街道400年記念サミット」を開催
  - ・「矢代川橋」の架替工事が完了し開通
- 12 月
- ・妙高山登山道及び遊歩道道標の整備完了

### ■平成 24 年

- 1 月
- ・E S C O事業で市内の既設街灯をLED灯に交換
  - ・豪雪災害対策本部設置（2月には最大積雪深が平成18年を上回る）



妙高山麓都市農村交流施設  
(愛称：ハートランド妙高)



調理実習室での体験の様子

施設では、農村体験や地域の食材を使った料理講習などの交流体験が行われている



市内の既設街灯 4977 灯を発光ダイオード（LED）灯に交換。節電と二酸化炭素排出削減で環境にやさしいまちへ



平成 20 年から架替工事が行われていた矢代川橋が完成。10 月、完成を祝う開通式が賑やかに行われた

## 市議会議員（敬称略）

### ●平成 23 年選出

堀川義徳、塚田克己、高田保則、横尾祐子  
長尾賢司、丸山喜一郎、関根正明、豊岡賢二  
作林一郎、吉住安夫、佐藤栄一、樗沢 諭  
八木清美、渡辺幹衛、宮澤一照、佐藤光雄  
植木 茂、山川香一

※議員数 23 人→18 人



資源を活かした健康都市へ

平成  
24 (2012) 年度

■平成 24 年

- 4 月 ・「暴力団排除条例」が施行
- ・旧杉野沢小学校に「杉野沢トレーニングセンター」を開設
- ・矢代小学校が新井小学校へ統合
- ・市立小・中・特別支援学校施設の耐震化率100%を達成
- ・「妙高市地域コミュニティ振興指針」「新井南部3地区の地域振興計画」を策定
- 6 月 ・大洞原の花畑造成事業完了
- 7 月 ・市内バス運賃無料化実証運行実施
- 10 月 ・新井小学校の新グラウンドが竣工
- 11 月 ・「笹ヶ峰高原夢見平避難小屋・トイレ」が完成
- 12 月 ・「健康保養地まちづくりシンポジウム」を開催
- ・地域密着型高齢者支援ホーム「長沢いきいきホーム」を開設

■平成 25 年

- 2 月 ・豪雪災害対策本部設置
- ・「国立公園・妙高シンポジウム」を開催
- 3 月 ・関山神社火祭りの「仮山伏の棒遣い」と「柱松行事」が県無形民俗文化財に指定
- ・旧関山宝蔵院庭園が国名勝に指定



自然・温泉など妙高の資源を活用した健康教室実施  
(平成 25 年度から「健康保養地プログラム」として本格実施)



大洞原の花畑造成事業完了。妙高山麓とまとの里「四季の花畑」としてオープン



新井小学校の改築工事完了。10月、新しいグラウンドでの初の運動会が盛大に開催された



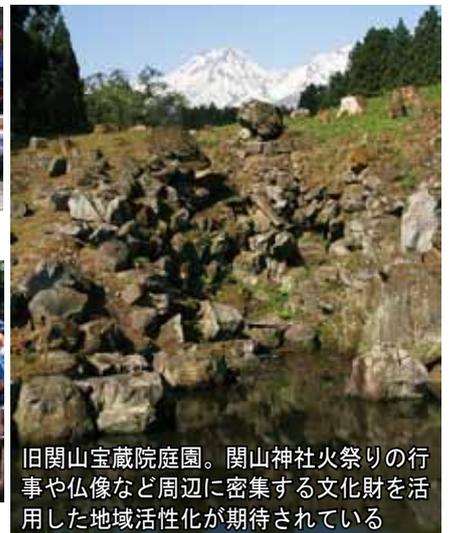
長沢いきいきホームは、冬期間の生活の場としてだけでなく、地域の高齢者が交流する場としても活用されている



仮山伏の棒遣い



柱松行事(松引き)



旧関山宝蔵院庭園。関山神社火祭りの行事や仏像など周辺に密集する文化財を活用した地域活性化が期待されている

## 「総合健康都市 妙高」元年

# 平成 25 (2013) 年度

### ■平成 25 年

- 4 月 ・「妙高高原ふれあい会館」をリニューアルして移転開設
- ・「元気いきいき健康条例」が施行
- ・「みょうこう減塩生活大作戦」を開始
- 5 月 ・「～泉客万来～ 越後上越 食の嵐 in 妙高」を開催
- 6 月 ・上越市の北陸新幹線新駅の名称が「上越妙高駅」に決定
- 7 月 ・「空き家等の適正管理に関する条例」が施行
- ・WHO（世界保健機関）の提唱する健康都市連合に加盟
- ・「総合体育館（はね馬アリーナ）」開設
- ・「地域のこし協力隊」を配置
- ・「健康フェア」を初開催
- 9 月 ・台風18号の豪雨により矢代川堤防が栗原地内で決壊。災害対策本部設置
- 10 月 ・杉野沢地区で下水道の一部供用を開始
- 11 月 ・「岡倉天心六角堂前駐車場」完成
- ・「妙高温泉観光施設整備（LEDデザイン街路灯）」が完成
- ・第2回「健康寿命をのばそう！アワード」で優良賞を受賞（厚生労働省）
- ・国民健康保険特定健康診査の受診率が県内20市中4年連続1位
- 12 月 ・岡倉天心没後100年・市文化ホール開設30周年記念で、岡倉天心作のオペラ「白狐」を世界で初めて上演
- ・新井中央小学校区放課後児童クラブ「わくわく放課後児童クラブ」を開設

### ■平成 26 年

- 2 月 ・ソチ冬季オリンピックに妙高市関係者3人出場。清水礼留飛選手（兼俣出身）がジャンプ団体で銅メダル獲得



健康寿命をのばそう！アワード受賞式

竣工式では、自衛隊音楽隊の演奏、当市出身フットボール選手所属チームのチアリーダーなどを行い完成を祝った。



7月7日に竣工式が行われた



竣工式「テープカット」



NHKラジオ体操の講師を迎えて行われたラジオ体操講習会

健康寿命延伸を目的に健康づくりに取り組む妙高市。その一つとしてラジオ体操を行い、市民の健康づくりを推進している



利用者と完成を祝った、わくわく放課後児童クラブ竣工式



新たな妙高高原ふれあい会館オープン



赤倉温泉で行った「～泉客万来～越後上越 食の嵐(らん)」に2日間で約3万5千人が来場

## 思い出の言葉

### 合併初期に誕生した特色ある事業



元教育長  
白川 昭夫さん

合併当初の教育行政の課題は「3市町村それぞれの伝統を大事にしながら、妙高市の一体感を出す」ということでした。それに就いて生まれた事業を紹介します。

その1つが「妙高市民の心」推進運動です。地域に伝わる住民の豊かな心や慣習を受け継ぎ、併せて市民としての一体感をはぐくむことを目指すもので、いまでは広く市民の間に浸透してきています。

もう1つはフレンドスクール事業で、市内にある青少年自然の家を基点に、昼間は野外で活動し、夜は児童主体の活動に取り組みながら、児童同士が1週間の共同生活をするものです。市内全小学校の6年生が学校の枠を超えた6人ほどで生活班をつくるので、最初は容易に交われなくても、合宿が終わるころには別れを惜しみ合うまでに友情を深めるようになります。また、一皮むけた成長も見取れます。

この2つの事業が今後も受け継がれ、妙高の子らの健やかな成長に役立つことを期待しています。



平成26年4月に行った清水礼留飛選手のメダル報告会。市文化ホール周辺をオープンカーでパレードした

2月に行われたロシア・ソチ冬季オリンピックに出場した清水礼留飛選手(写真左)が、ジャンプ団体競技で、銅メダルを獲得。4月のメダル報告会に所属の雪印メグミルクスキー部・原田雅彦監督(写真右)とともに参加しました。上越地域から初となる五輪メダリスト誕生に、当市から妙高市スポーツ特別栄誉賞を贈呈しました。



北陸新幹線新駅の名称が「上越妙高駅」に決まり6月に発表された



市文化ホール開館30周年記念の世界初演「オペラ白狐」(岡倉天心作)に満席の会場から大歓声が沸き起こった

## 新たな時代への旅立ち

# 平成 26 (2014) 年度

### ■平成 26 年

- 4 月
- ・認定こども園「さくらこども園」が開園（第二保育園・姫川原保育園・新井南幼稚園を統合）
  - ・旧大鹿保育園を改修し、「大鹿交流館」を開設
  - ・住民票の写し等の第三者交付に係る本人通知制度を開始
  - ・「歩こう！妙高！健康プログラム」の実施
- 6 月
- ・住みよさランキングが県内20市中1位（2014年度版都市データ・ランキング）
- 7 月
- ・「東赤倉テニスコート」を改修
- 10 月
- ・「ツェルマット・妙高 観光友好都市提携20周年記念事業」実施
  - ・主要地方道上越新井線が全線開通
  - ・笹ヶ峰に携帯電話基地局設置。携帯電話が利用可能となる

### ■平成 27 年

- 1 月
- ・ESCO事業で水夢ランドあらいがリニューアル（地中熱利用、LED照明など）
- 2 月
- ・「日本クアオルト協議会」設立
- 3 月
- ・「第2次妙高市総合計画」を策定
  - ・「妙高戸隠連山国立公園」が誕生
  - ・「北陸新幹線（長野-金沢間）」が開業
  - ・「えちごトキめき鉄道」が開業
  - ・「しなの鉄道北しなの線」が開業



認定こども園「さくらこども園」が開園



笹ヶ峰に待望の携帯電話開通



リニューアル記念のテニス教室

県内では初となる人工クレーコートに改修された東赤倉テニスコート



東京で行われた設立総会

大分県由布市、和歌山県田辺市、山形県上山市、石川県珠洲市とともに「日本クアオルト協議会」設立



平成27年3月14日北陸新幹線（長野-金沢間）開業  
妙高連山を仰ぎながら新幹線が快足する



平成27年3月14日、「えちごトキめき鉄道」が開業。妙高高原駅で直江津行列車の出発式実施。新たな鉄道時代スタート

# 「妙高戸隠連山国立公園」誕生

昭和31年7月に上信越高原国立公園に編入された「妙高戸隠地域」（西部地域）は、妙高山を代表とする妙高火山群と戸隠山を代表とする戸隠連峰など、火山・非火山の多様な山岳が密集し、点在する高原、湖沼がこれと相まって一体的な自然景観を作り出しています。

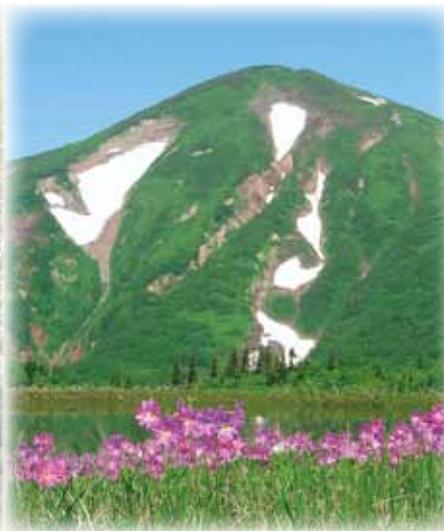
環境省が実施した国立公園に関する点検・調査により、志賀高原・谷川・苗場・草津・万座・浅間地域（東部地域）とは、異なる風景形式を有していることがわかり、平成27年1月20日に開催された中央環境審議会において、これらが国を代表する傑出した自然の風景地であると認められました。そして、3月27日の官報告示をもって正式に上信越高原国立公園から分離、全国で32番目の「妙高戸隠連山国立公園」が誕生しました。



## 生命力あふれる自然の宝庫



＜火打山・焼山のライチョウ＞  
日本の生息地では最北端。氷河期から生存する貴重な鳥である



＜火打山とハクサンコザクラ＞  
山々は高山植物の宝庫。夏には、色鮮やかな草花が一斉に開花する



＜日本の滝百選「苗名滝」＞  
当地は日本有数の豪雪地。豪快に流れ落ちる雪解け水が大地を潤す

火山・非火山の結集地である妙高戸隠連山国立公園には、豊かな自然や貴重な野生動植物、また古の山岳信仰を背景とした歴史・文化が受け継がれている。

# これからの妙高市へ

## 生命圏域で躍進する妙高

仰山塾塾長・東京大学名誉教授 **月尾 嘉男 先生**



妙高が光輝いている。長野から金沢への高速鉄道の延伸により新駅「上越妙高」が設置され、「妙高戸隠連山国立公園」も誕生した。これらの快挙の背後にあるのが、新市の発足とともに標榜された「生命圏域（バイオリージョン）」である。

これまでの地域社会は歴史や文化を反映しない行政圏域に拘束されていた。しかし動物や植物が市町村界に関係なく棲息しているように、人間も古来、自然環境を根拠とする生命圏域で生活してきた。それを行政の基礎としたのは妙高が世界最初である。

生命圏域は自然環境と人間社会に共通する真理である。その理念を現実の市政に反映させ、維持すべきは維持し、変革すべきは変革してきた成果が現在の妙高の躍進である。日本の環境は激変しているが、生命圏域の精神で一層の繁栄を期待したい。

## 我が道を進むことを期待

妙高市顧問・妙高里山みらい塾塾長 **高野 孟 さん**



妙高市 10 歳の誕生日、おめでとうございます。ということは、私が市の顧問という名誉な肩書きを頂いて、年に最低一度は訪れて市長はじめ有力者や地域の活動家のみなさんと懇談するようになってから 10 年が過ぎたということでもあります。

その間にも、妙高の恵まれた自然を活かした地域活性化のための実験が着々と積み上げられてきて、そこへ今年からは北陸新幹線と妙高戸隠連山国立公園という画期的な 2 つのツールが加わって、それをテコとした新たな発展へと向かう飛躍の時を迎えているのだと思います。

全国の政治も経済も雲行きがおかしいですが、委細構わず、「地域のことは地域で決める」という覚悟で我が道を進むことを期待します。

## これからの妙高市へ

ソチ五輪メダリスト・雪印メグミルク **清水 礼留飛 選手**



妙高市誕生 10 周年、誠におめでとうございます。

現在は札幌で生活しておりますが、生まれてから高校卒業まで妙高で過ごした時間は、私にとっては宝物です。豊かな自然や美味しい食べ物、人のあたたかさ、どれをとっても一番だと思っています。遠く離れてみて、故郷の良さに気づきました。

北陸新幹線の開業で、国内外問わずたくさんの方々妙高市を訪れると思います。妙高の魅力が、日本だけではなく世界に向けて、今まで以上に発信されることを願っています。

私も世界に通用するジャンプ選手になれるように、これからもっと頑張ります。そして次のオリンピックでは、一番輝く色のメダルを持って、里帰りしたいと思います。

# 新たな5年へ「第2次妙高市総合計画」



少子高齢化や人口減少問題など、社会情勢が大きく変化する中、市民と行政が一体となって新たなまちづくりを総合的かつ計画的に推進するため、市の目指すべき将来像を定め、その実現に必要な施策を明らかにした第2次妙高市総合計画を策定しました。

- 基本理念…「生命地域の創造」
- 目指す将来像…「人と自然にやさしい ふれあい交流都市～生命が輝く妙高～」
- 計画期間…平成27年度～平成31年度

## ●5つの重点項目

- ①人口減少対策の充実・強化…喫緊の課題である人口減少に歯止めをかけるため、結婚から出産、子育ての切れ目のない支援や移住・定住、雇用支援などに取り組みます
- ②新幹線・国立公園を活かした交流人口の拡大…北陸新幹線の開業と妙高戸隠連山国立公園の誕生を契機に、交流人口の拡大を図るため、地域資源の磨き上げや受入体制の充実、宣伝活動の強化などに取り組みます
- ③総合健康都市 妙高の推進…健康寿命の延伸と医療費削減を目指し、生活習慣病予防の更なる推進や健康保養地プログラムなどの充実に取り組みます
- ④地域協働のまちづくりの推進…自助・共助・公助の考え方を基本に、市民や事業者、行政などが連携・協力し、まちづくりを進めるため、地域の主体的な課題解決への支援や自主防災組織・消防団の体制強化などに取り組みます
- ⑤未来を支える地域基盤の整備…地域発展の基盤となる道路・橋梁・上下水道など、社会インフラの計画的な整備や地域資源を活用した新たなビジネスの創出など、地域産業の活性化に取り組みます

## 共に歩む 妙高市との交流都市

### ■海外の交流都市



スロヴェニ・ダラデツ市 (スロベニア)



ツェルマツ村 (スイス)



グリンデルワルト村 (スイス)



シュルンス村 (オーストリア)



チャグンス村 (オーストリア)



東京都板橋区



大阪府吹田市



愛知県北名古屋

### ■災害時相互応援協定都市 ※ ( ) は協定締結年



新潟県上越市 (H7)



新潟県糸魚川市 (H7)



新潟県十日町市 (H7)



新潟県村上市 (H8)



新潟県見附市 (H8)



東京都板橋区 (H15)



栃木県日光市 (H15)



山梨県都留市 (H15)



千葉県鴨川市 (H15)



群馬県渋川市 (H15)



茨城県かすみがうら市 (H15)



茨城県桜川市 (H15)



新潟県田上町 (H15)



福島県白河市 (H15)



山形県最上町 (H15)



群馬県高崎市 (H15)



群馬県沼田市 (H15)



大阪府吹田市 (H16)



愛知県北名古屋市 (H23)



福井県あわら市 (H24)



茨城県東海村 (H25)

# わがまち妙高への想い

丸山 未来さん

①妙高山、火打山の景色がきれいなところが自慢 ②いろいろな買い物ができる住みよいまち ③家から通える場所で働きたい



藤井 美咲さん

①学習施設や遊ぶ場所がたくさんある ②いつまでも自然が豊かなまち ③妙高の木のお世話（植樹や間伐）をして自然を守りたい



I LOVE MYOKO

森 歩夢さん

①妙高に広がる自然やそこで生まれる食材が好き ②思いやりの心で協力し合えるまち ③ドルフイントレーナーになってみんなに夢を与えたい



内田 麗斗さん

①雪が多くスキーができること ②今よりもっと緑がいっぱいのまち ③緑がいっぱいで、みんなに喜んでもらえるまちづくりをしたい



寺島 芙海さん

①近所の人と集まって交流できる地域の公民館が好き ②お年寄りや家族などみんなが笑顔で暮らせるまち ③警察官になって困った人を助けてあげたい



宮越 穂香さん

①自然がきれいなところ ②みんなが仲良く暮らせるまち ③保育士になって子どもたちに楽しい時間を過ごさせてあげたい

太田 侑さん

①自然が多く四季の移り変わりがきれい ②妙高山を世界遺産にしてほしい ③米や野菜を作り、たくさんの人に食べてもらいたい

市内の平成17年生まれの小学生、そして平成26年に立志式を迎えた中学生に次の質問に答えていただきました。

①妙高市の好きなおとこ ②妙高市への期待 ③将来の夢

### 安原 裕菜さん

- ①自然が豊かでお米がおいしい
- ②ごみの無いきれいなまち ③おじいちゃんのパン屋さんを継いでおいしいパンを作りたい



### 楡井 諒さん

- ①1年を通じてきれいな景色を見ながら屋外でスポーツができる
- ②他の地域に負けないPRでまちが発展してほしい
- ③きれいな景色をPRしてまちの発展に貢献したい



### 峰村 知宏さん

- ①自然豊かで、すぐにスキーができること
- ②市外から来る人にもやさしいまち
- ③妙高で開催される冬季五輪にアルペンの選手で出場したい

### 大野 芽生さん

- ①自然豊かでお米がたくさんとれる
- ②自然体験のできる施設を増やして欲しい
- ③パティシエになって自然にある食用花を使ったお菓子を作りたい

### 後藤 優太さん

- ①岡倉天心ゆかりのまちであることが自慢
- ②誰もが気軽に挨拶し合えるまち
- ③大工さんになって妙高の人の家をいっぱい建てたい



### 武田 英智さん

- ①おいしいものがたくさんあること
- ②平成26年に住みよさ県内1位になった。いつまでも住みよいまちでいてほしい
- ③柔道の県代表選手として全国大会に出たい

### 山崎 敬太郎さん

- ①冬のスポーツが盛んで有名な選手がいること
- ②地域間交流が盛んになるイベントを増やして欲しい
- ③料理人になり、妙高の食材を使った料理を多くの人に提供したい



### ミヨーコーさん

皆さんのすばらしい思いに感動しました。輝く未来に向かって、わたくしミヨーコーさんも、妙高市観光PRキャラクターとして精一杯頑張ります。

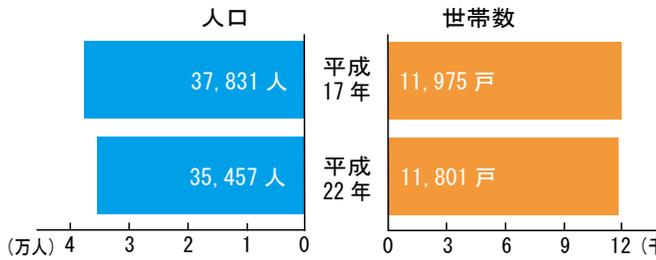
# 妙高市

## 1. 妙高市の位置・面積 (資料：妙高市例規類集)

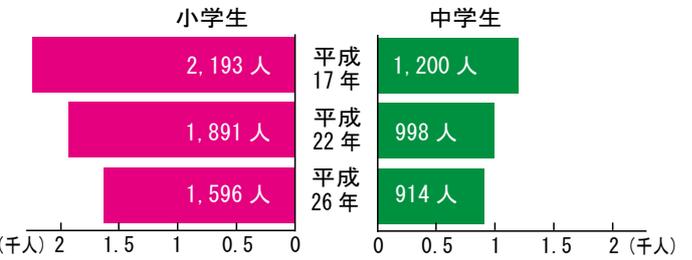
方位	広ぼう (km)	面積 (km <sup>2</sup> )	周囲 (km)
極東 東経 138° 22' 57"	東西 33.7	445.63	186.2
極西 東経 138° 00' 12"	南北 30.1		
極南 北緯 36° 48' 00"			
極北 北緯 37° 04' 15"			



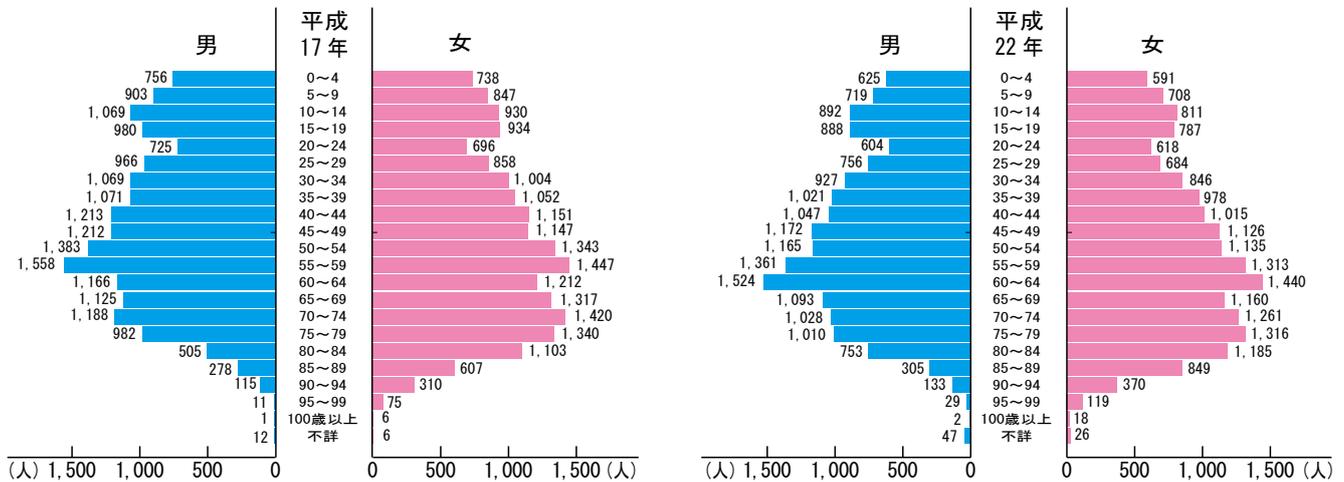
## 2. 人口・世帯数の推移 (資料：国勢調査)



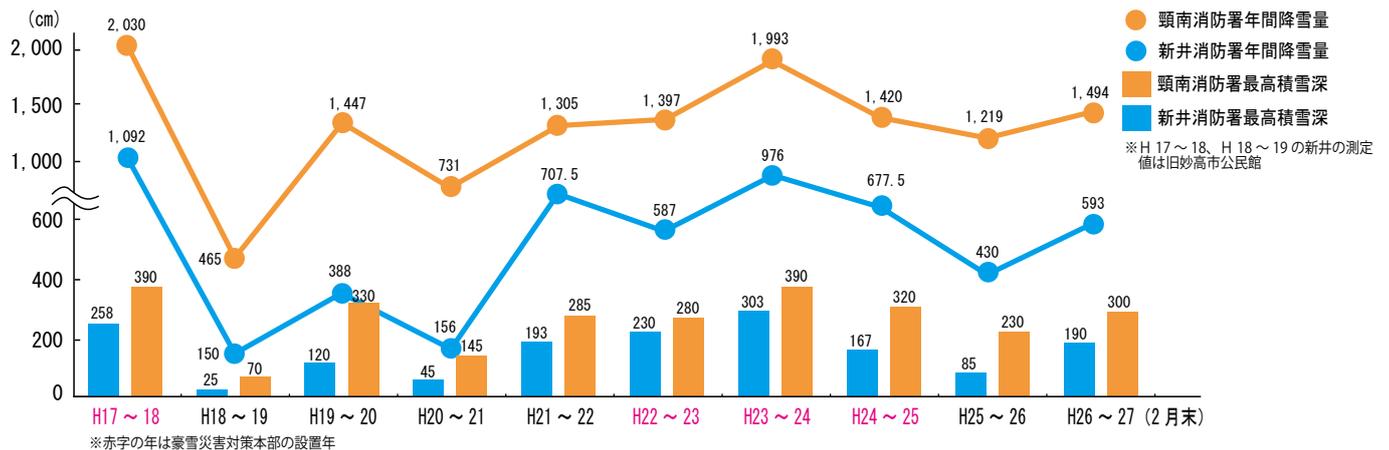
## 3. 児童・生徒数の推移



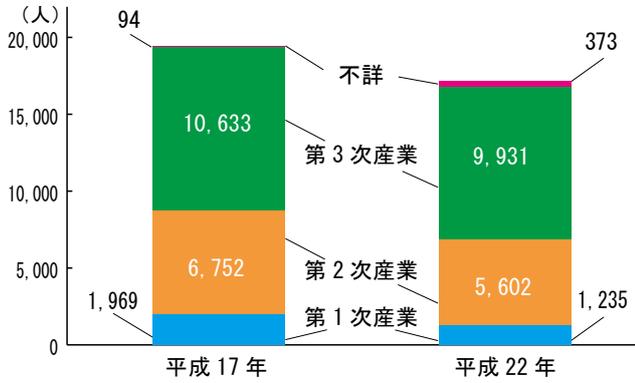
## 4. 年齢別人口 (資料：国勢調査)



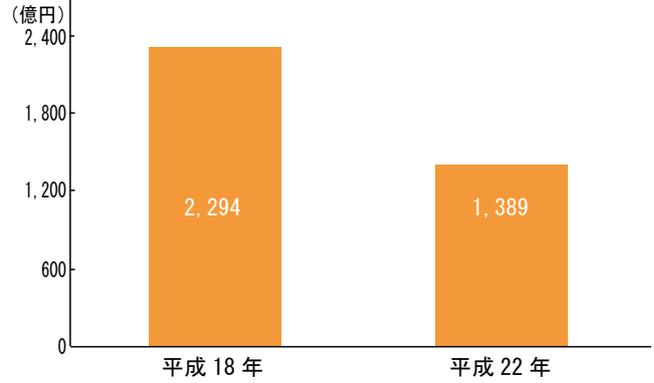
## 5. 妙高市の降積雪



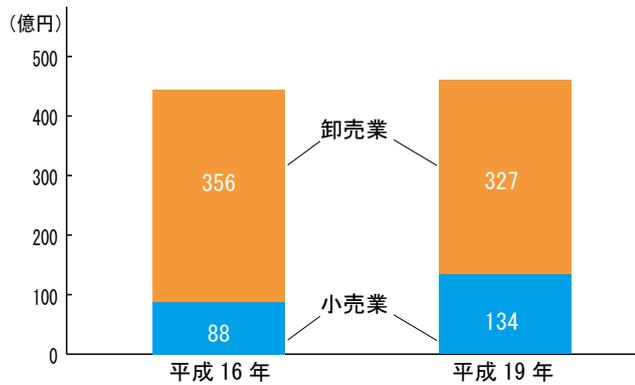
## 6. 産業別就業者の推移 (資料: 国勢調査)



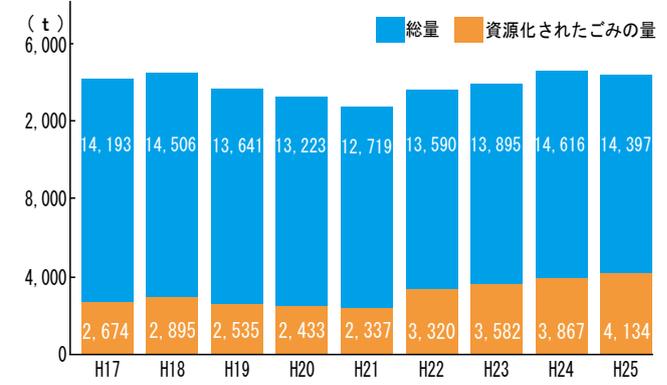
## 7. 製造品出荷額等総額 (資料: 工業統計調査)



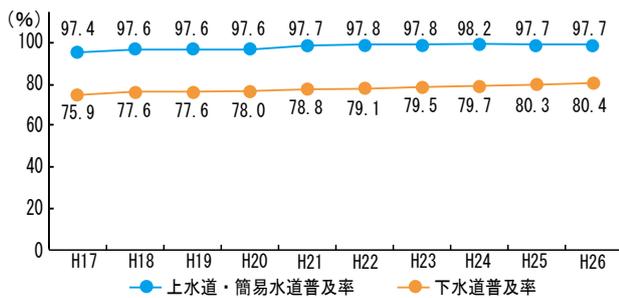
## 8. 年間商品販売額 (資料: 商業統計調査)



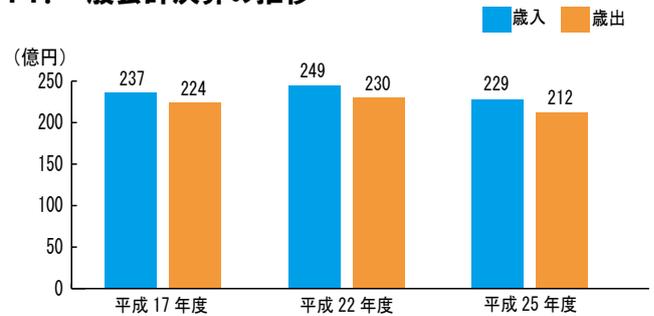
## 9. ごみの処理状況



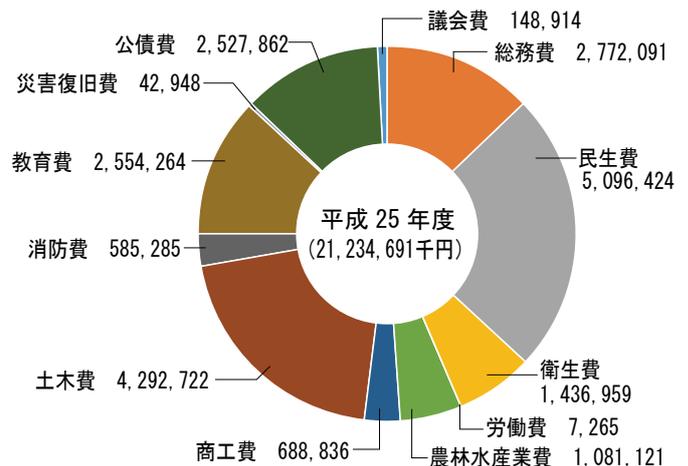
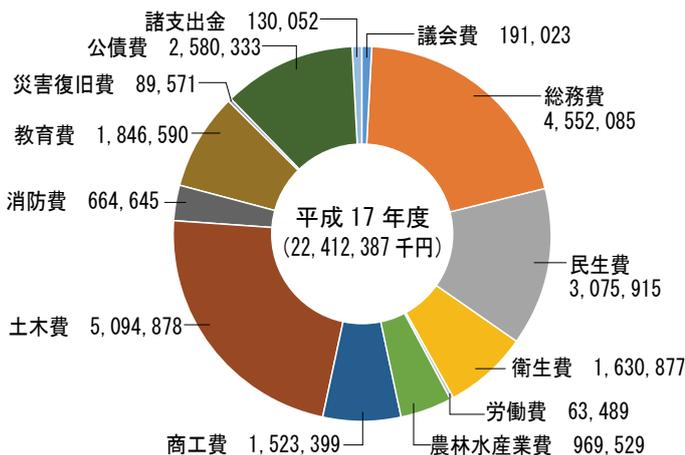
## 10. 上水道・簡易水道、下水道普及率



## 11. 一般会計決算の推移



## 12. 財政構成比 (一般会計歳出決算) の比較 (単位: 千円)





受けつぎ はぐくもう

# 妙高市民の心

雪国で培った ゆずり合う心 助け合う心  
受けつがれてきた「心」を大切に。

「妙高市民の心」とは…

家族や地域社会の「絆」を大切にし、相手を思いやり助け合う心

雪国「妙高」には、かつて細い雪道ですれ違う際に  
「どうぞ」と自ら道を譲るなど、  
雪国で培われてきた「思いやり」や「助け合い」の心が  
脈々と受けつがれ、生活の中にごく自然に根付いていました。  
その心の文化を思い起こし、「豊かな心」を受けつぎ育てるために、  
家庭・地域・学校・事業所が一体となり「妙高市民の心」を  
広める活動を進めています。

## 「妙高市民の心」推進の6本の柱

### ◎家族そろって食事をしよう

- 週に1回は家族そろって食事をしよう
- 休日の朝食は家族そろって食事をしよう
- テレビを消して会話を楽しみながら食事をしよう
- 家族団らんの時間を大切にしよう
- 食事の時は、「いただきます」「ごちそうさま」と感謝の気持ちを表そう



### ◎声かけやあいさつをしよう

- 気持ち良く1日をスタートするために、「おはようございます」と明るくあいさつを交そう
- まず、大人からあいさつをしよう
- あいさつをされたら、元気にあいさつを返そう
- 地域ぐるみであいさつをしよう
- 困っている人には、進んで声をかけよう
- あいさつを交しながら、地域のコミュニケーションを深めよう
- 「ありがとう」「ごめんなさい」の言葉をはっきり言おう



### ◎お年寄りや体の不自由な人に手をさしのべよう

- お年寄りや体の不自由な人に声をかけたり、地域で見守りをしよう
- 相手の立場になって考え、行動しよう
- 思いやりのある言葉遣いを心がけよう
- ご近所付き合いをしよう
- 「何か手助けすることはありませんか」と、まず声をかけよう
- ご近所のお年寄りの除雪作業やごみ出し作業を、積極的に手伝おう
- ご近所のお年寄りの買い物や、声をかけ合って手伝おう



### ◎社会のルールを守ろう

- ごみのポイ捨て、不法投棄はやめよう
- 交通ルールを守ろう
- 喫煙マナーを守ろう
- 他人に迷惑をかける行為は慎もう
- まず、大人が子どもたちの手本になろう
- 子どもたちから敬われる大人になろう
- 良い行いは、みんなでほめよう
- 悪い行いは、注意しよう
- 目上の人を敬おう
- 人に迷惑をかけたなら、きちんと謝ろう



### ◎地域の行事に家族で参加しよう

- 隣近所誘い合って、家族で地域行事に参加しよう
- 親が率先して、子どもと共に地域の行事や活動に参加しよう
- 子どもたちに自然体験や社会体験の機会をつくらう



### ◎ごみを拾おう、花を植えよう

- 身の周りの環境美化に努めよう
- みんなで力を合わせて活動しよう
- みんなで地域をきれいにしよう
- みんなで地域を花いっぱいになろう
- みんなで妙高の豊かな自然を守ろう
- 自分が捨てたごみでなくても、知らん顔せずに拾おう



# 妙高市非核平和都市宣言

私たち妙高市民は、願っています。

妙高山麓に広がる豊かな自然と、雪国の暮らしで培った、思いやりや感謝の気持ちを大切に、すべての命を安心して育むことができるまち「生命地域 妙高」が子々孫々に引き継がれることを。

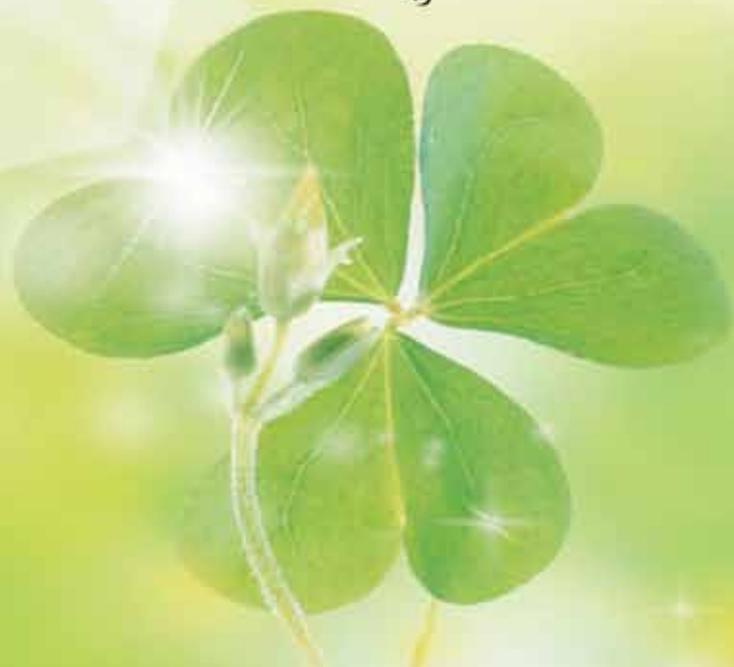
私たち妙高市民は、憂<sup>うれ</sup>えています。

世界各地で紛争が絶えないこと、人類の平和な暮らしを脅かす、核兵器や環境破壊行為などが存在することを。

私たち妙高市民は、行動します。

世界平和のため、かけがえない命と自然環境を二隣にして破壊する「核兵器廃絶」に向け、世界中の皆さんと手を携えて。

私たち妙高市民は、地球上のすべての人々が、豊かな自然に抱かれ、平和に暮らし続けることを願い、ここに決意を新たに「非核平和都市 妙高」を宣言します。



## ●妙高市長



初代 入村 明

平成 14.11.25 (旧新井市) ～在職中

## ●妙高市副市長

氏名	就任	退任	
横尾 幸秀	平成 14.12.24	平成 18.12.23	※旧新井市より継続。職名：助役
引場 良男	平成 19.4.1	平成 23.3.31	※自治法改正により職名：副市長
市川 達孝	平成 23.4.1	在職中	

## ●妙高市収入役

氏名	就任	退任	
高櫻 實	平成 8.4.1	平成 17.6.30	※旧新井市より継続
引場 良男	平成 17.7.1	平成 19.3.31	※自治法改正により収入役廃止

## ●妙高市教育長

氏名	就任	退任	
白川 昭夫	平成 11.10.1	平成 19.9.30	※旧新井市より継続
濁川 明男	平成 19.10.1	在職中	

## ●妙高市議会議長

氏名	就任	退任	
丸山 與一郎	平成 15.8.1	平成 19.7.31	※旧新井市より継続
佐藤 栄一	平成 19.8.8	平成 23.7.31	
豊岡 賢二	平成 23.8.4	平成 25.8.5	
佐藤 光雄	平成 25.8.5	在職中	

## ●妙高市議会副議長

氏名	就任	退任	
堀川 勇	平成 15.8.1	平成 19.7.31	※旧新井市より継続
丸山 喜一郎	平成 19.8.8	平成 21.8.10	
下鳥 美知子	平成 21.8.10	平成 23.7.31	
佐藤 光雄	平成 23.8.4	平成 25.8.5	
作林 一郎	平成 25.8.5	在職中	

※敬称略

# 妙高市の歌「めぐる季節は」

詩・曲／荒木とよひさ

♩ = 103

うまれたばかりの あさのひかりを  
 てのひらにそっと のせてごらんよ  
 いていることが こんなにまぶしく  
 ちいさいのちが かがやいているよ めぐ  
 る きせつはきつと あしたのおくりもの うけつ  
 ぐ このいのちは うつくしいから うけつ  
 ぐ このみょうこうは - うつくしいから

## めぐる季節は

生まれたばかりの 朝の光を  
 手のひらにそっと のせてごらんよ  
 生きていることが こんなに眩しく  
 小さな生命が 輝いているよ  
 めぐる季節はきつと あしたの贈りもの  
 うけつぐこの生命は 美しいから  
 うけつぐこの妙高は 美しいから  
 うけつぐこの妙高は 美しいから  
 ラララ・・・  
 ラララ・・・  
 めぐる季節はきつと あしたの贈りもの  
 うけつぐこの心は 美しいから  
 うけつぐこの妙高は 美しいから  
 生まれたばかりの 風の言葉を  
 愛するだれかと 聴いてごらんよ  
 見つめる瞳が こんなに優しく  
 ふれ合う心が ときめいてくるよ  
 めぐる季節はきつと 未来の贈りもの  
 うけつぐこの心は 美しいから  
 うけつぐこの妙高は 美しいから



## 「妙高市誕生 10 周年記念誌」

発行：妙高市役所（総務課広報情報係）  
 〒 944-8686 新潟県妙高市栄町 5 番 1 号  
 電話 0255-72-5111 ファクス 0255-72-9841  
 ホームページアドレス <http://www.city.myoko.niigata.jp/>

発行日：平成 27 年 3 月  
 印刷：(株) ケーナール

## 妙高市の市章



妙高市の頭文字「M」をモチーフにして、妙高山をイメージし、3つの山で3地域を表しています。また、全体として、翼を広げて鳥が未来へ羽ばたくイメージで、緑は豊かな自然や安らぎを表しています。

## 妙高市の「花・木・鳥」



シラネアオイ

日本固有の植物で、日本海側の雪国に自生。青紫色をした花で、妙高山から南葉山にかけて分布しています。



ブナ

保水力に優れ、生命の営みに重要な役割を果たします。笹ヶ峰、大毛無、平丸など全市的に分布しています。



オオルリ

瑠璃色をした姿と、さえずりがとても美しい鳥です。市内のブナ林などに生息しています。